日本気象学会 1992 年度春季大会の報告

日本気象学会 1992 年度春季大会は，1992 年 5 月 26～28 日に工業技術院筑波研究センター共用講堂で行われた．参加者数は 579 名であった．

今回は口頭発表が 4 会場に分かれて行われた（前回までは 3 会場）．会場利用時間の制約等により，大会シンポジウムは従来の 2 日目から 1 日目午後に移し，「新しい観測システム」のテーマで行われた．2 日目午後にはピナツボ噴煙に関するトピック講演に続いて，総会，堀内基金奨励賞（1991 年度）および藤原賞の記念講演が行われた．学会賞については，受賞者の都合で記念講演はなかった（次回大会で行われる予定）．

発表申込件数は過去最高の 289 件（ただしキャンセルが数件あった）で，その内訳は第 1 種講演が 197，第 2 種講演が 78，ポスターが 14 件であった．第 2 種講演として申し込まれた講演のうち，予稿の書き方が第 2 種の要件を満たさないためプログラム編成時に第 1 種に変更されたものが 29 件（前回は 24 件，前々回は 30 件）あった．

大会前日（25 日）と翌日（29 日）には，大会会場・気象研究所・高層気象台で，4 つの研究連絡会および有志による個別の研究会が計 5 件開かれた．また，初めての試みとして大会期間中に会場の 1 室で賛助展示会が開かれ，17 社から出展があった．この他，大会期間前後に有志による見学会などが行われた．

今大会では，キーワード制によるセッション編成が試行された．プログラム編成上の反省点として，(1) 1 講演者による 2 つの口頭発表の時間が重なった例があったこと，(2) 終了時間が 30 分以上超過したセッションがあったことが挙げられる．(1) については，今後のプログラム編成作業の際に注意したい．(2) については，講演時間の厳守が徹底するよう，発表者の協力が必要である．

今大会事務局として大会準備・運営にご尽力頂いた気象研究所をはじめ，会場の使用や要員の確保にご協力頂いた資源環境技術総合研究所，国立環境研究所および筑波大学の皆様に深く感謝致します．

1992 年 6 月　講演企画委員会

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
第11回雲と降水に関する国際会議	1992年8月17日～21日	IAMAP/ICCP	カナダモントリオール McGill 大学	Vol. 38, No. 4
エアロゾル研究討論会・国際シンポジウム	1992年8月19日～21日	日本エアロゾル学会	太田市ふじや旅館（群馬）	Vol. 39, No. 5
第13回ニュークリエーションと大気エアロゾルに関する国際会議	1992年8月24日～28日	IAMAP, CNAA, ICCP	アメリカユタ州 Utah 大学	Vol. 38, No. 1
国際雪氷学シンポジウム「雪と雪に関する諸問題シンポジウム」	1992年9月14日～18日	IGS，日本雪氷学会，新潟県，長岡市	長岡産業交流会館（長岡）	
アジアモンスーンに関する国際シンポジウム	1992年9月21日～25日	気象研究所，東京大学 日本気象学会	筑波研究交流センター	Vol. 39, No. 5
集中豪雨と洪水に関する国際シンポジウム	1992年10月5日～9日	中国国家科学技術委員会 水利局，気象局	中国安徽省黄山市	Vol. 39, No. 3
日本気象学会 1992年度秋季大会	1992年10月7日～9日	日本気象学会	教育文化会館（札幌）	
長期予報と大気大循環の講演募集	1992年10月26日	気象庁予報部 長期予報課	気象庁第1会議室	Vol. 39, No. 6
第29回自然災害科学総合シンポジウム	1992年11月4日	重点領域「自然災害」総合研究班	秋田市文化会館（秋田）	
第11回日本自然災害学会学術講演会	1992年11月5日～6日	日本自然災害学会	秋田市文化会館（秋田）	
第12回風工学シンポジウム	1992年12月3日～4日	シンポジウム運営委員会	建築会館ホール（東京）	Vol. 38, No. 12